

病児・病後児保育園（保育所）のご利用にあたって

働くママが仕事を続けていくうえで『子どもが急病や登園停止の病気にかかったとき、急には仕事を休めないかもしれない』という心配は常にあると思います。抵抗力の弱い乳幼児の病気はともすれば長期化・重症化しやすいので、完治するまではそばで看病したいけれど何日も仕事を休めない…。職場の理解と家族の協力、そして健康のありがたさを痛感しながらママたちはどうしたらよいか悩みます。

そんな気持ちを支えて子どもたちを預かっていただけるのが病児・病後児保育園。今回取材させていただいた4ヶ所はいずれも医療機関に併設されており、保育時間内に診察を受け病状の変化に対応していただけます。感染症の病児への対応にも配慮くださり、回復期のお子さんが安心して過ごせるよう、またできるだけご利用の機会が少ないこと（＝健康）を願って働いている保育士の皆さん。利用料1日2千円（前ページ参照）は自治体の助成があるとはいえ、保育士や病院スタッフの皆さんのご尽力がとても大きいことを知りました。また、働いている・いないにかかわらずどうしても保護者がそばについてられない場合にご利用いただけるので、病児託児のひとつの場所としてみなさんにご紹介させていただきました。

病気になっていちばんつらいのはお子さん本人。いつもと違う託児先に戸惑うことも多いようです。持参されたタオルで安心してお昼寝される場合もあるし、病気のときのアレルギー反応は人それぞれですので、お子さんの体調にあわせた昼食・おやつ準備はスタッフ・保護者双方の安心につながります（事前申込みで対応くださる園もあります）。急なときほどあわてないですむように、各園の場所や持ち物をママだけでなく関わるご家族みなさんで事前にご確認いただくことをおすすめします。

健康なお子さんを連れての見学はできないので、参考までにお部屋の様子を撮影させていただきました。取材の頃はちょうど感染症が流行っている時期でした…各園のみなさまには、この情報誌作りにご理解いただき、お忙しいなか取材に対応くださりありがとうございました。



ピノキオ



ミッキー



すずらん



1日の流れ（ピノキオ）



バオバオ



スタッフの皆さん（すずらん）

取材を終えて…

『病気の時だけでも傍にいてあげたい。でも働きに行かなくてはならない』という親の辛い気持ちは、保育士さん自身もワーキングマザーだったこともあって、痛いほどよくわかるとのこと。だからこそ、少しでも安心して働きに出ただけのような保育をしたいし、雑誌をしていく中で少しでも心が楽になってくれたら嬉しいとお話して下さったすずらん保育園の保育士さん。

今回聞いたお話は、どこの病児保育でも同じような事を心掛けていらっしゃると思いますが、実際私が利用しているすずらん保育園さんでも、普段利用する際は、なかなかゆつくり話す機会がなかったので改めて先生たちの思いをきくことができ、ますます安心して預けることができる！と思えました。こうして我が子を見守ってくれる場所があるということ、こういう場所があることで、安心して働けるといふことをもっともっと感謝しなくちゃいけないな、と思いました。（山本）